

「ファブ社会」の展望に関する検討会 第1回 議事要旨

1. 日 時

平成 26 年 1 月 10 日（金）17:00～19:00

2. 場 所

総務省地下 2 階 第 1, 2 会議室

3. 出席者（50 音順、敬称略）

【構成員】岩寄構成員、岡部構成員、田中構成員、チェン構成員、古川構成員、
水野（大）構成員、水野（祐）構成員、吉村構成員

【総務省】阪本情報通信国際戦略局長、泉情報通信政策研究所長、小津調査研究部長、
三島主任研究官

4. 議事要旨

(1) 総務省挨拶

開会にあたり、阪本情報通信国際戦略局長より挨拶が行われた。

(2) 構成員紹介及び総務省出席者紹介

(3) 開催要綱・議事運営等

開催要綱及び検討の背景について事務局から説明し、了承された。

また、開催要綱に則り、田中構成員が座長に、岩寄構成員が座長代理に選任された。

(4) 基調講演

「ソーシャルファブリケーションで突破する情報社会」

ゲストスピーカー 公文 俊平（多摩大学情報社会学研究所 所長、

（財）ハイパーネットワーク社会研究所 理

事長）

【基調講演要旨】

- ・ 現在は、大きな視点で見ると、近代化の最終局面、ラストモダンに位置づけられる。
- ・ 現在は、産業化の成熟局面の「第 3 次産業革命」と情報化の出現局面の「第 1 次情報化革命」が同時におきている。この 2 つは質的に違う動きなので分けて考える必要がある。
- ・ 第 3 次産業革命の主要産業にはデジタル工作機械産業がなると考えている。
- ・ 第 1 次情報革命は情報化すなわちソーシャル化であり、その核となるのが、ソーシャル・ファブリケーション。
- ・ 今後は、産業化と情報化はともに手を携えて進み、社会は、現在のネット（ウェブ）社会から、ファブ社会へ、その後ピア社会に進むと考えられる。
- ・ ファブ社会の出現により、情報産業のプラットフォーマーの暴走、個人の孤立化の問題などの社会問題がおこるリスクも考えられる。

(5) 意見交換

ゲストスピーカーの基調講演について、主に以下の質疑・意見交換が行われた。

①インターネット普及から20年の振り返り

- ・ インターネットの普及で、コミュニケーションコストが非常に小さくなった。そのことで、インフラの整備だけでなく、アプリケーション層の成熟化も実現できた。
- ・ 前半の15年は既存のものへの代替だった。その後、ソーシャルネットワークが立ち上がってユーザーが価値を持ち始めてからがインターネットの本当の価値ではないか。
- ・ この20年で、情報の権利が流動化した。情報コンテンツについては、権利と情報が引きはがされる事態が増えてきている。
- ・ インターネットの普及で、服飾業界は大きな変化が起きた。従来のデザイナー像が崩れた一方、普通の匿名的な立場の人が、自分の服を作り、発表し、コミュニティをつくるようになった。

②ファブ社会への期待

- ・ ファブ社会では「愉しさ」がキーワードになる。そのため、組織の中で生きてしまいがちな人々が、その意味を考え直し、自分の喜び、活動力のために何をするのかを考えるようになるように変化するのではないか。
- ・ 今まで産業が「幸せ」を人々に与えていた。今後は、人々のつながり、ソーシャルなものが幸せをかたちづくる社会に変化するのではないか。
- ・ ファブ社会では、もの、サービスが情報のようにシェア、流通する「通品」という概念にかわる。そのときに、どのような場でそれが交換されるのか。それが新しい市場になるのではないか。
- ・ ファブ社会では、欲しいときにものがあられ、いらなくなったら処分する、そのような状況になった時に所有という概念が変わるのではないか。その時に人は所有したいと思うのか。
- ・ ものを消費することをやめて、コンサマトリ¹なものづくりに向かっていくことは可能か。ものをつくることに新しい欲望を感じることは可能なのか。

③ファブ社会の課題

- ・ 3D プリンターの出現により、企業のものづくり等に与える影響を懸念する向きもあるが、現在、そこに携わる人たちが活躍できる分野があると思う。それをこの検討会で見つけられると良い。
- ・ デジタル・ファブリケーションの普及の課題の一つに、コミュニケーションコストがまだ高いことがある。今後、課題を具体化し個々に検討していく必要がある。
- ・ 既に現場でおきつつある、ピア社会、互恵的な関係を社会制度にするためには、

現場でおきていることをどのように大学などのアカデミックに接合・変化させていくかが課題。

- ・ ファブ社会で都市がどのように変わるのか。今後の人口減少により都市の更なる集約化がおこる状況とファブ社会の進展は重なるのではないか。また、その時に、原料提供、回収のインフラを考えると、それを担うのは大企業にならざるを得ない。小さな主体が愉しみながらものをつくる環境が、大企業に支配されるという構造になるのではないか。
- ・ ファブ社会では、適時適量生産が実現される。そのときに、情報と同じでものから権利が引きはがされ、所有権などの権利概念の変容もおこるのではないか。
- ・ ファブ社会を担う人材にはどのような高等教育が必要になるかを考える必要がある。
- ・ ファブ社会で他国の大企業がインフラ部分を独占し、国際競争力がない分野に追いやられてしまうことがないように道筋をどのようにつけるのか。
- ・ ファブ社会を考える上でも、効率、グローバル化への過剰な適応は、本当に大きなリスクに対応ができなくなる。そのリスクを考え、違うスペクトルでも考える必要があるのではないか。

以上

i アメリカの社会学者タルコット・パーソンズの造語。道具やシステムが本来の目的から解放され、地道な努力をせず自己目的的、自己完結的（ときに刹那的）にその自由を享受する姿勢もしくはそれを積極的に促す状況のこと。（「ウェブサイエンス 2.0 胎動 用語解説」より）